

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち1枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	今村 謙作議員	1 部落差別解消推進法について	2016 年 12 月 9 日、参議院本会議において「部落差別の解消の推進に関する法律」が可決成立し、12 月 16 日に公布され即日施行された。部落差別解消推進法に基づく伊佐市の取組についての基本姿勢と部落差別の解消に向けた市長の決意を伺いたい。	市長 教育長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち2枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	沖田 義一議員	<p>1 西之表市との交流（鉄砲まつり）について</p> <p>2 伊佐市の基幹産業である農業の担い手の現状と対策について</p>	<p>「第 48 回種子島鉄砲まつり」となると、昭和 44 年頃から始まったものと思われる。伊佐市（旧大口市、旧菱刈町）との縁は戦時中の「学童疎開」を受け入れたことが発端だと伺っている。そのようなことから、西之表市とは友好都市として各種団体等の交流、研修を行っているが、それらについて伺いたい。（旧菱刈町は喜界島からの疎開あり）</p> <p>(1) 行政間の交流、研修等について (2) 教育委員会としての交流、研修等について (3) 民間、その他の交流等について</p> <p>(1) 農業者の高齢化が進んでいるが、後継者がなかなか育ってこない。この現状をどう捉えているのか。 また、対策として、どのようなことを考え実施していくのか（成功例があればあげてほしい。）。</p> <p>(2) 米の作付けがなされずに放置した田が多々見受けられる（特に中山間地のほ場整備をしてある田が目につく。）。 特にサコダ（谷田、迫田）と呼ばれる田が目につく（特に水系が一つ）。一枚の田が植え付けされないと、3、4年のうちに全ての田が耕作放棄地となっていく。対策としては。</p> <p>(3) 地域の高齢者等の田の耕作を請け負って（数ヘクタール）いる方もいらっしゃるが自分一代限りの方も見受けられる。対策としては。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち3枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
3	緒方 重則議員	<p>1 飼料用米の取組について</p> <p>2 地域おこし協力隊について</p>	<p>これまでも質問事項として、何回となく挙げられているが現状では難しいとの答弁であった。私たちも独自の研修に基づき以下のことについて見解を問う。</p> <p>(1) 「作付けしても引き取り先がない」という問題について、全量買い取りの意思を示す業者があるので取組の推進ができるのではないかと。</p> <p>(2) 作付けが進むことで、混合飼料工場の地元誘致が期待できると思う。業者としても九州管内地域ごとに点在させる構想がある。</p> <p>(3) 市外の地域での取組も大変参考になると考える。地元農業の転換期と捉えるぐらいの覚悟が必要でないか。</p> <p>市のホームページで募集要項が示されたが、</p> <p>(1) 現在での反応はどうか。</p> <p>(2) 職種として1から6まで列挙してあるが、今後の具体的な進め方を伺う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち4枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	前田 和文議員	<p>1 市道忠元公園線・大道下青木線の改良工事の進捗状況について</p> <p>2 地域防災活動と個人情報取り扱いについて</p>	<p>(1) 忠元公園へのアクセス及び国道 447 号の迂回路として、その完成が期待されている原田と羽月を結ぶ市道の新設・改良工事の進捗状況と、現在取り組んでいる課題を示されたい。 また、完成に至る今後の見通しも示されたい。</p> <p>(2) 災害対策道路として位置づけし取り組まれている大道下青木線の新設・改良工事の進捗状況と、現在取り組んでいる課題を示されたい。また完成に至る今後の見通しも示されたい。</p> <p>(1) 担当課が把握している要支援被救護者の人数とその把握方法を示されたい。</p> <p>(2) 市全域に及ぶような自然災害が発生した場合、その対象者の安全対策・適切な避難がなされた確認作業は、対策本部や担当部署だけで実施可能なのか。</p> <p>(3) 自助、共助の受け皿として組織化されているコミュニティ協議会との連携は有効に活用されるべきだと考える、見解を問う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち5枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	植松尚志郎議員	1 伊佐市の人口について	平成 20 年 11 月 1 日の合併時は人口 3 万 1,080 人いたのが、平成 29 年 7 月 31 日現在では 2 万 6,744 人になっている。8 年 9 か月で 4,336 人減少している。1 年間に約 500 人減少している。このままでは、10 年くらいするとまた合併をしなくてはならないと考える。いろいろ対策はされているが、もっともっと工夫する必要があるのではないかと考える。市長の考えを伺う。	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち6枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	福本千枝子議員	<p>1 観光施策について</p> <p>2 高齢者の交通手段について</p>	<p>本市への観光客数は平成 26 年度が約 61 万人で平成 21 年度と比較すると 4 万 4,000 人減少となっている。そこで、</p> <p>(1) 本市の観光客のほとんどは日帰り型が主流であり、宿泊型が少ない。このことをどう捉え分析しているか。</p> <p>(2) さつま町との連携による地方創生推進事業「DMO」の現在の活動は。</p> <p>(3) 「地域おこし協力隊」の募集要項が伊佐市のホームページに掲載された。その中で観光分野を得意とする隊員募集の考えはあるのか。あるとすればどの分野なのか。そしてどのようなことを期待しているか。</p> <p>(4) 池畑県議から伊佐市において大きなプロジェクトが動くとの話があったが、観光振興と関係はあるのか。</p> <p>過疎化や高齢化、団塊の世代も高齢化が始まっている。今後ますます交通弱者が増加すると考える。また、高齢者の運転による交通事故も多発し、大きな社会問題となっている。そこで、</p> <p>(1) 本市でも福祉タクシー助成事業を展開している。乗り合いタクシーや、タクシー券の利用状況は。</p> <p>(2) 利用について地域差もある。その原因をどう捉えているか。</p> <p>(3) 遠距離や障がいを持つ人は足りないとの声がある。住民の声に検討されたことがあるか。</p> <p>(4) 運転免許返納者を含め、タクシー運賃割引証の活用は考えられないか。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち7枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	畑中 香子議員	<p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>2 国保の値上げ問題について</p> <p>3 訪問給食サービスについて</p> <p>4 生活道路の維持管理について</p>	<p>(1) 市長は市議会の中で T P P など国政の問題については「政府のやっている施策について評価や批判をする場所ではない」と発言し、水俣病被害者が県の認定を受けられず苦しんでいる問題については「国の制度に基づいて県が行っている。市が独自に認定に援助はできない」との答弁をしている。全国の市長や知事の中には沖縄県知事や長崎市長、隣の水俣市長などのように県民・市民のためにはっきりと国に意見を言う首長がおられるが、市長も国や県の方ではなく市民の方を向いて市政を行うべきではないのか。</p> <p>(2) 7月7日、国連で核兵器禁止条約が採択されたが、日本政府は会議に参加せず、反対の立場をとった。このような平和に関する問題について見解を伺う。</p> <p>(1) 国保世帯の所得水準と重すぎる税負担について認識があるか。</p> <p>(2) 県内での医療費の高さが指摘され、依然として県下で6位と高い水準であるが、医療費が高額に上がっている要因の分析と取組を示せ。</p> <p>(3) 標準保険料率や独自事業がどのようになるかなど、都道府県単位化で検討されてきている内容について市民に公表せよ。</p> <p>(1) 訪問給食の1食が650円と県下19市の中で2番目に高いため利用ができないとの声が多い。高齢者の健康を維持するために栄養のある食生活をするのは最も大切なことだと考えるが、社会福祉協議会への一般会計からの助成や、直営でのサービス提供など検討し、値下げせよ。</p> <p>(1) 材料費のみを助成するむらづくり事業では高齢者の多い地域では、改修できず放置されている生活道路が多く存在し、市民からの要望も多い。他市の状況をみても市民の利用する生活道路は市がきちんと維持管理を行っているが、高齢者が利用する、子どもたちの通学路となっている道路などは要望が多く、緊急性の高いものについては整備を行うべきではないか。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち8枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	鶴田 公紀議員	1 公有財産の利活用について	(1) 旧中央公民館（福社会館）、衛生センター、旧図書館跡地は。 (2) 重留花公園や轟公園の管理状況について (3) 庁舎建設について新市まちづくり計画及び総合振興計画の見直し等の状況について (4) 移住体験住宅の近年の利用状況は。	市長	
		2 災害対策について	(1) 河床の整備状況は。 (2) 老朽ため池の整備状況は。 (3) ハード面とソフト面の対策は充分か。 (4) 川内原発に対する安定ヨウ素剤の希望要請は。	市長	
		3 グラウンド橋から園田橋の周回コースの舗装の検討について	(1) 県河川敷であるが、舗装の要請経緯について	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち9枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	柿木原榮一議員	<p>1 伊佐市の登記の必要な資産の宅地、農地、山林の所有者不明について</p> <p>2 伊佐市への企業誘致の現状について</p>	<p>(1) 全国では、所有者が分からない土地の面積が、410 万ヘクタールあるという。登記された土地の筆数では全体の 2 割に当たる。伊佐市の場合、所有者不明の宅地、農地、山林の面積、数はいくら程あると把握しているのか。</p> <p>(2) 所有者不明の土地が増える要因を伊佐市の場合、どう分析をされているのか。</p> <p>(3) 伊佐市の所有者不明の対策としてどのようなことをしているのか。</p> <p>(4) 所有者が不明なままだと、固定資産税などの徴収や公共事業の支障になるほか、農地や山林の荒廃にもつながるが、所有者の探索や土地利用の方策を検討をしているのか。</p> <p>(5) 登記も売却もできず、地価は下がったが、固定資産税収は高止まりといわれている。また、国民健康保険税には資産割課税があるが、どのような施策があるのか。</p> <p>(1) 2015 年度から 2016 年度まで伊佐市が手掛けた企業誘致の実績は。</p> <p>(2) 県は「かごしま製造業振興方針」で 2016 年度からの 5 年間で 170 件の誘致を目標としているが、伊佐市として企業誘致として県の産業立地課とコンタクトを取っているのか。</p> <p>(3) 県は振興方針に基づき、自動車、電子、食品のほか環境、新エネルギー産業に重点を置いている。また、本年度から新たに研究開発施設誘致に積極的に取り組んでおられるが、具体的に研究開発施設誘致の考え方及びどのようなものの誘致が可能か。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち10枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	森田 幸一議員	<p>1 市役所職員の時間外勤務と健康管理について</p> <p>2 色覚異常の児童生徒への対応について</p>	<p>(1) 昨年度の職員の時間外勤務について ア 昨年度、時間外勤務（残業時間）が一番多かった職員は年何時間だったか。また、一番多かった月で何時間程度残業があったのか。多い順に 5 例示せ。あわせて、その方の所属先も伺う。</p> <p>(2) 精神的・身体的なストレス等による病休・休職者の現状について ア 長期にわたる休職者の実態が、過去 5 年間で何人いたのか、更にその職員は何か月程度休んだのか伺う。 イ 休職まで至った経緯、理由等はどんなことがあったのか。そして、どうして休職までしなければならなくなったのか。具体的な原因を伺う。</p> <p>(3) 平成 27 年 12 月からストレスチェック等の検査が義務付けられたが、職員への実施時期・実施方法、またその管理と活用策について ア 平成 27 年 12 月からメンタルヘルス不調を防止するための新たな取組として、厚生労働省が従業員 50 人以上の全国の職場で年 1 回、「ストレスチェック」の方針が示されたが、情報管理のあり方と、その活用策について伺いたい。</p> <p>(4) プレミアムフライデーを目指す考えはないか。</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち11枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
11	岩元 努議員	1 若者の就農意欲向上に対する本市の取組について	<p>人口減少と、少子高齢化社会に伴い、若者の地域外流出が進む中、伊佐市においても地域経済を支える企業や、農業就農者の担い手が年々減少傾向にあり深刻化している。そこで今年、5月に衆議院会館で、行われた農業高校のGAP教育推進に関する意見交換会で普及活動に努めていただきたい方向性を示された。参加校の伊佐農林高等学校としても取り組む必要性がでてきた。1年後を導入目標に、準備を進めたいとしている。市として、どのような準備、そして支援策が考えられるのか伺う。</p> <p>(1) GAP取得に、関する情報収集は。</p> <p>(2) 取得にかかる期間と費用、ランニングコストは。</p> <p>(3) GAPを取得した生産品と、しない生産品では、これからの国内・海外マーケットにどのような影響が考えられるか伺う。</p>	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち12枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
12	山下 和義議員	1 伊佐市木造住宅整備促進事業について	<p>平成 20 年の伊佐市の誕生後、伊佐市の方向性としていかに地元企業が雇用を確保しながら発展できるかを模索してきている。その一つとして、大手のホームビルダーに仕事を奪われていた市内の建設業者等のため、平成 24 年度から木材利用の促進と市内建築業者に対し、木造住宅の新築及び増改築を支援し、また、市内商工業の活性化及び雇用の維持・創出を図るため・伊佐市木造住宅整備促進支援基金条例を制定し、また、伊佐市木造住宅整備促進事業補助金交付要綱で、地場企業が受注のしやすい環境をつくり企業の発展並びに雇用を行ってきた。</p> <p>この事業の平成 26 年から 28 年の 3 年間の実績は、新築・増改築の申請件数が約 300 件を超え、また、補助金は約 6,000 万円であるが対象事業経費は約 16 億円と伊佐市に与えている経済効果は多大なものである。また、このように事業効果が上がっている事業は施策の中でも他に類を見ない事業である。ただ、この事業の最終年度が来年の 3 月 31 日までとなっている。今一度この事業を見直し、今後も数年か続けていくことで伊佐市の雇用の創出及び地場産業の発展につながっていくと思われる。</p> <p>そこで次のことについて伺う。</p> <p>(1) 平成 30 年度以降のこの事業の継続ができないか伺う。</p> <p>(2) 今一度、基金を積み立てることができないか伺う。</p>	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち13枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
12	山下 和義議員	2 新庁舎建設について	<p>新庁舎建設については、3月定例会で市長は防災拠点の観点からも取り組んでいかなければならないと答弁している。そのために合併時の新市まちづくり計画の変更が必要で、計画変更について、新庁舎を含めた財政計画の作成をして、それについて地域審議会の意見を聴取する。また、県との事前協議、その後市議会の議決、議決後に県を通じて総務省の総務大臣の同意となるという答弁であった。そこで次の点について市長の見解を伺いたい。</p> <p>(1) 今現在の進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 県との事前協議の状況</p> <p>(3) この前の南日本新聞で始良市の新庁舎建設計画が報道された。始良市も合併推進債の活用のためには平成 34 年度までの完成を検討されているとのことである。伊佐市も 34 年度までの完成を目指すとなると、建築予定地や庁舎の設計等タイトなスケジュールになると思う。今考えている変更スケジュールを伺う。</p> <p>(4) 推進債を使うとした場合の財政状況は。</p>	市長	
		3 若いうちからの乳がん検診の実施について	<p>女性特有のがんである子宮頸がん検診と乳がん検診は平成 29 年度の検診対象となっている。ただ、子宮頸がん検診の対象年齢が 20 歳以上の女性となっているのに対し、乳がん検診の対象者は 40 歳以上となっている。今、若い女性の乳がんリスクは子宮頸がんと変わらないぐらいになっていると言われている。伊佐市は子育てにやさしい街である。それは偏に子どもを産み育てやすいまちを目指し、そのためには生産年齢といわれている女性の健康を守る施策を実施することであると思う。</p> <p>そこで、乳がん検診についても 20 歳以上の女性を対象にできないか伺う。</p>	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち14枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
12	山下 和義議員	<p>4 国民健康保険事業について</p> <p>5 伊佐市の今後の行政運営について</p>	<p>平成 30 年度から鹿児島県が保険者になる。今の現状を説明してほしい。</p> <p>今後の保険税の動向を、いつ市民にお知らせしていくのか。</p> <p>30 年度以降の国保会計への法定外繰出金はどうなるのか。</p> <p>2020 年度のオリンピックまでは国内の景気はそれなりに良いのではないかと思う。ただ、その後については自分ごときでは予想もつかない。</p> <p>市民の方々が伊佐市の今後について心配されている。老朽化する公共施設の整備、400 km²ある伊佐市内をどう維持管理していくのか、コンパクトシティの方向性を目指せるのか心配である。現実に自治会の美化活動等の時のメンバーがほとんど 10 年前と変わっていない自治会が多数あり、市道や里道・農道の整備ができない。今後それらに対して行政がどこまで対応が可能なのか。</p> <p>また、市内の医療機関の今後も大変気になる。今のうちから医師会等と協議していく必要があると思う。市長の見解を伺う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち15枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
13	森山 良和議員	1 混合飼料工場の建設誘致に向けた取組とは	(1) W C S ・飼料用米の生産拡大を図っていく中では、混合飼料工場との連携も必要となってくる。既存の施設をどのように活用していく考えなのか。 (2) 混合飼料工場の建設は、耕種農家や畜産農家だけではなく、新たな雇用の場としても期待が持てる。W C S ・飼料用米の先進的産地として、また、若者が働く場として、工場の持つ役割は大きいと思われる。今後、建設誘致に向けた取組が具体的に行われるのか伺いたい。	市長	
		2 DMOを活用した農作物のブランド推進について	(1) DMOの取組は、農業分野においても大きな波及効果をもたらすことができるのか。現在の進捗状況と今後の取組について伺う。 (2) 農業を基幹産業としている伊佐市においては、農業振興とブランド推進を確実に進めていかなくてはならない。観光と農業が一体となった農作物の P R ・ブランド推進を図っていくためには、DMOの活用もより一層必要なのではないか。考えを伺いたい。	市長	
		3 このままで伊佐の農業は守れるのか	(1) 農作物の被害対策や生産性の向上、労働作業の軽減など、農家が直面している課題は数多くある。また、遊休農地活用に向けた抜本的改革も急務であるが、これらの課題解決に向けた現在の取組について伺う。 (2) 伊佐の基幹作物である米は長年、生産推進されてきた。ブランドとして確立されてきた伊佐米であるが、生産推進はこれからも将来にわたって行っていく考えなのか。農業は転換期を迎えようとしている。伊佐の農業のあり方を変えられるのか、伊佐の農業が進むべき将来ビジョンは見えているのか。考えを伺いたい。	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち16枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
14	武本 進一議員	1 認知症施策の推進と成年後見制度の利用促進について	<p>(1) 認知症高齢者の実態について</p> <p>ア 日常生活自立度Ⅱ以上（認知症の一般的な定義）の認知症高齢者数</p> <p>イ 高齢者数（65歳以上）に占める認知症高齢者数の割合</p> <p>ウ 高齢者数（65歳以上）に占める要支援・要介護認定者数の割合</p> <p>(2) 認知症施策の現状について</p> <p>ア 認知症の方々の生活を支援するために、現在どのような施策を展開しているか伺う。</p> <p>(3) 福祉サービス利用支援事業（社会福祉協議会）の状況について</p> <p>ア 契約件数（認知、知的障がい、精神障がい、その他）の推移</p> <p>イ 社会福祉協議会の実施体制の現状と課題を伺う。</p> <p>(4) 首長による家庭裁判所に対する成年後見申し立ての現状について</p> <p>ア 4親等以内の親族の申し立てができない場合市町村長が申し立てるが、本市の現状を伺う。</p> <p>(5) 国において昨年成立した「成年後見制度利用促進法」に基づき、本年3月に閣議決定された「成年後見制度利用促進基本計画」への対応について</p> <p>ア 同計画の目的、概要（自治体等の役割）についての認識を伺う。</p> <p>イ 「成年後見制度利用促進計画」（市町村計画）の策定についての考え方を伺う。</p>	市長	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち17枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
15	井上 文雄議員	<p>1 スポーツ振興対策について</p> <p>2 ホテル建設用地について</p> <p>3 道の駅調査について</p>	<p>(1) テニスコートの整備及び夜間ナイター設備について何う。</p> <p>(2) ホテル建設調査費 200 万円で調査したとのことだが、調査報告書の提出をお願いしたい。</p> <p>(3) 今後の道の駅構想のためにも、これまでの調査結果報告書の提出をお願いしたい。</p>	<p>教育長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>	

平成 29 年第 3 回定例会一般質問

平成 29 年 9 月 5 日・7 日・8 日

(18枚のうち18枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
16	谷山 大介議員	<p>1 子ども支援について</p> <p>2 観光振興について</p>	<p>子どもの健やかな成長と子どもたちの未来ある社会のために、安心して できる生活や、学習環境について見解を伺う。</p> <p>(1) 伊佐市に住む全ての子どもたちのために。「子ども医療費無料化」 について ア 医療システムの構築について イ 小児慢性特定疾病の医療費助成だけで全てカバーできるのか。 ウ 軽度の病気から重篤な病気になったときの対応 エ 子ども安心医療費助成制度について オ 陳情の取り扱いや経過について</p> <p>(2) 伊佐市立小中学校、幼稚園における冷暖房完備について ア 今年是非常に暑かった。市内の小中学校、幼稚園において熱中症 は起こっていないか。 イ 伊佐市にある全ての小中学校、幼稚園にエアコンの設置は考えて いないか。 ウ 過去と現在のエアコンの設置状況 エ これまで暑いとき、寒いときに身についた環境に対応していく力 は他の自治体の学校と比べて身につけているか。 オ 教育長は学校長からの意見を具申できる体制を整えているか。</p> <p>(1) 来年の大河ドラマは「西郷どん」であるが西南戦争は伊佐市でも行 われている。大河ドラマのあった地域での経済効果はすごく、伊佐 市としても期待したい。 ア 伊佐市に西南戦争ゆかりの地はどれくらいあるか。 イ 観光客が来た場合に安全に観光できるようになっているか。 ウ 経済効果を最大限に発揮してほしい。対策はあるのか。 エ 伊佐市内の他の観光地につなげていく作戦はあるのか。 オ 忠元神社の奉納刀の行方について カ 来年はチャンスの年であるPRの準備を伺う。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 教育長</p>	